

選択科目(地理歴史)

日本史

(出題内容・形式・配点)※出題内容、問題番号、配点は2月7日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 原始時代における信仰・儀礼	記述	30	80分
II 平安時代の対外関係	記述	30	
III 近世から戦後に至る教育史	記述	40	
合計		100	

【出題の基本方針】

教科書に準拠することを大原則とし、特定の教科書のみに取り上げられた事項は極力避けることを心がけ、原始・古代～近現代の全時代・全分野をカバーする出題を、5セット総体として企画することを基本方針とする。歴史用語の単純な暗記に終始することなく、時代観や歴史像をイメージさせる出題を心がける。

【学習のポイント】

- ・まずは、教科書の本文を中心に、混乱することなく、各時代と分野の歴史の展開を把握し、時代観・年代観を養うことが肝要である。
- ・漠然と、古代の、近代の、といった括りでなく、原始は先史・縄文各期・弥生各期・古墳時代各期の特性を体系的に把握し、古代～近世、19世紀前半までの時代は、世紀ごとの把握が、また1850年代の幕末・明治維新期以降は、1860年代、70年代といった、10年ごとの展開の把握が重要となる。言うまでもなく、こうした学習を効率的に進めるには、年表の活用が必須である。市販のものを利用するのもよいが、自身でオリジナルな年表をノートに作成し、徐々に内容を充実させて、折に触れ目にするように心がければ、自ずから時代観・年代観が養成されることになる。また、年次を伴わない、各時代の代表的な文化財等については、該当する年表の箇所に、表にまとめておくのが効果的である。
- ・また、正確な年次と歴史用語の漢字表記が要求されることから、ケアレスミスを防ぐという意味合いからも、書いて覚えるよう心がける必要がある。用語集を用いた学習が広く行われているが、闇雲に暗記を重ねるだけでは、少し「捻った」問題になるとたちまち解答に混乱を来すことが懸念される。やはり、個別の項目を習得する大前提として、時代観・年代観の養成、つまり年表の中に個別の項目を位置づけていくという作業が極めて重要な意味を持つ。そうすれば、明らかに時代・年代の異なる事項を解答するような初歩的な間違いはなくなる。
- ・付け加えて、教科書と用語集、年表を用いた学習のみで満足することなく、必ず史料集や図表を活用した学習をしてほしい。いずれかの設問で史料・図表・写真等が利用されることになり、この部分の出来・不出来が全体の成績を左右する傾向にある。教科書に記載されている事項は、いかなる根拠すなわち史料に記されているのか、常に意識しながら学習することが望ましい。また、用語の字面だけでなく地域・場所などの空間的な把握も必要である。なお、昨今の傾向から、同時代の海外情勢との関連を意識することはもはや当然のことと言えよう。